

設での倫理申請に利用していただくことは可能。

山田：全国的な試験を行う体制の構築は困難ではないか。岸田先生の施設での臨床研究に参加するという体制での倫理申請をおこなう方が容易ではないか。

岸田：髄液の JCV-PCR 検査のみでは陰性の場合があり、追跡調査を行う体制を作りたい。定期的な全国調査も必要であると考えている。

山田：フォローアップ体制の確立は必要と考えている。海外では強力な免疫抑制薬による PML が報告されているが、わが国での状況はどうか。

岸田：現時点では上記のような患者の発生は確認していない。

岸田：来年定年を迎えるが、今後引き続いて継続していただく方がどうなるのかが心配。

雪竹：診療ガイドラインについては改訂を行っているところであり、改訂を行いつつ意見を伺っている状況である。

・個別研究について (SSPE)

細矢：リバビリン脳室内持続投与の症例を増やしたい。その他に使用できない薬剤の有無について検討中。

市山：抗体検査の体制の普及を図りたい。

楠原：SSPE の感受性に関連した遺伝子の検討の継続、サイトカインとの関連の研究を継続したい。

堀田：マウスでの病原性の検討、siRNA を用いた治療の可能性の検討を行いたい。

柳：ウイルス感染に関連したレセプターの研究を継続する。

野村：リバビリン長期投与例のフォローアップを今後も継続したい。

大塚：2007 年の調査例のフォロー、各地域での情報収集を行いたい。

愛波：SSPE 発症要因のチェック。患者会との連絡係としての役割を行い、患者会への情報提供を適宜行う。

多田：データの把握や解析を行いたい。

(PML)

澤：JCV の持続感染機構の解明と臨床へのフィードバックを行いたい。

西條：JCV の検査依頼への対応。発症状況の評価、発症の危険因子の検討などを行う。

岸田：PML 症例の予後の評価、メフロキン治療の効果判定を行う。

原：JCV の感染における promyelocytic leukemia nuclear body (PML-NBs) の解明の継続。最近、診断についての相談が増えており、適宜感染研に連絡するよう返事をしている。病理診断の感度を上げられるようにしたい。

長嶋：PML の発症リスクに関する周知が必要だろう。siRNA の脳室内投与による治療はできないかを考えている。

雪竹：PML のガイドラインの改定を行う。難病情報センターの改訂などを通して、情報を随時改訂、レビューしていきたい。

奴久妻：基礎研究の継続。増殖抑制因子の検索。培養細胞がご入り用であれば提供可能。

山田：研究の推進をお願いします。ガイドライン等のアップデートについては適宜研究班としてアピールを行います。

文責：坂井健二、2011.8.20 作成

平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業(山田班・水澤班)

プリオン病合同画像委員会 議事録

日時：平成 23 年 11 月 27 日(日) 13:30-15:30

場所：東京ステーションコンファレンス 401 号会議室

東京都千代田区丸の内 1-7-12 サピアタワー4 階

参加者：

山田正仁	(金沢大学 脳老化・神経病態学)
浜口 毅	(金沢大学 脳老化・神経病態学)
三條伸夫	(東京医科歯科大学 脳神経病態学)
佐藤克也	(長崎大学 感染分子解析学)
高尾昌樹	(東京都健康長寿医療センター 神経病理学)
岩崎 靖	(愛知医科大学 加齢医科学研究所)
原田雅史	(徳島大学 放射線科)
藤田浩司	(徳島大学 神経内科)
宇山直人	(亀田総合病院 放射線科)
佐々木真理	(岩手医科大学 医歯薬総合研究所)

審議事項：

- 1) 開会に当たり、山田研究代表者よりご挨拶を頂いた。
- 2) 原田委員より、合同画像委員会発足の経緯について説明があった。
- 3) 藤田委員より、DWI 読影実験の結果について説明があり、表示条件標準化 DWI は表示条件可変 DWI と同等の診断精度を持ち、FLAIR に比し高い診断精度を持つことが示された。本発表に対して質疑応答を行い、DWI のさらなる診断能向上が必要なこと、3T MRI の診断精度の検証と最適化が必要なこと、FLAIR の撮像条件の標準化が必要で脳ドックガイドラインに準ずることが望ましいことが確認された。
- 4) 各委員より、3T MRI, 1.5T MRI による CJD の画像が示され、質疑応答を行った。3T MRI では皮髄境界が明瞭でアーティファクトも強いため、しばしば判定が困難なことが確認された。また、薄いスライスの撮像で病変の診断能が向上する可能性が伺えた。
- 5) 佐々木委員より、多施設研究計画書・プロトコル草案について説明があり、質疑応答をおこなった。大筋で承認されたが、今後、本会での議論を元に修正し、メールなどにてさらにブラッシュアップした上で、研究代表者の施設および参加施設の倫理委員会に諮ることとした。また、他の施設にも参加を募ることとした。
- 6) その他、ウェブ上の読影トレーニングプログラムを作成してはとの提案があった。

散会

(文責: 佐々木真理)

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業

プリオン病及び遅発性ウイルス 感染症に関する調査研究班

プリオン病のサーベイランスと 感染予防に関する調査研究班

平成 23 年度 合同研究報告会

プログラム・抄録集

日時：平成 24 年 1 月 16 日（月） 9：30～17：35

平成 24 年 1 月 17 日（火） 9：00～17：00

場所：アルカディア市ヶ谷 6 階 阿蘇

〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-25

TEL:03-3261-9921, FAX:03-3261-7760

プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班

研究代表者 山田正仁

事務局：〒920-8640 石川県金沢市宝町 13-1

金沢大学大学院脳老化・神経病態学（神経内科学）

TEL:076-265-2292, FAX:076-234-4253

E-mail: prion@med.kanazawa-u.ac.jp

<http://prion.umin.jp/index.html>

プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究班

研究代表者 水澤英洋

事務局：〒113-8519 東京都文京区湯島 1-5-45

東京医科歯科大学大学院脳神経病態学（神経内科）

TEL:03-5803-5234 FAX:03-5803-0169

E-mail:prionuro@tmd.ac.jp

<http://prion.umin.jp/index.html>

平成23年度 合同研究報告会 プログラム

1日目 1月16日(月) 9:30~17:35

開始時間	演題番号	研究者名	演題	演者
9:30			研究代表者 挨拶 (プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班 山田正仁)	
9:35			研究代表者 挨拶 (プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究班 水澤英洋)	
9:40			厚生労働省健康局疾病対策課 ご挨拶	
I. プリオン病のサーベイランスと感染予防 Part 1 (9:50~11:00)				座長: 村山繁雄
9:50	1-1	中村好一	クロイツフェルト・ヤコブ病サーベイランス登録状況および結果について(1999年4月~2011年9月)	定金敦子
10:00	1-2	金谷泰宏	プリオン病サーベイランスデータの管理・運用の研究	金谷泰宏
10:10	1-3	北本哲之	サーベイランスの遺伝子解析に関する研究	北本哲之
10:20	1-4	佐藤克也	異常型プリオンタンパク試験管内増幅法(RT-QUIC法)とバイオマーカーを用いたヒトプリオン病の髄液診断法の確立—サーベイランスで問題点—	佐藤克也
10:30	1-5	三條伸夫	我が国の遺伝性プリオン病における髄液中バイオマーカー所見と発症年齢・予後・進行速度の関連性について	三條伸夫
10:40	1-6	山田正仁	プリオン蛋白遺伝子V203Iホモ変異を認めたCJDの1例	小松潤史
10:50	1-7	西澤正豊	V180IとM232R変異を併せ持つ遺伝性 CJDの1例	横関明男
11:00-11:15	休憩			
II. プリオン病のサーベイランスと感染予防 Part 2 (11:15~11:55)				座長: 森若文雄
11:15	1-8	黒岩義之	CJDサーベイランスにおけるcodon200点変異を認めたCreutzfeldt-Jakob病の特徴	工藤洋祐
11:25	1-9	原田雅史	CJDサーベイランス症例におけるDWI及びFLAIR画像の診断有用性の多施設読影実験による検討	原田雅史
11:35	1-10	水澤英洋	プリオン病の剖検・病理検査に関する現状と展望	水澤英洋
11:45	1-11	村山繁雄	プリオン病病理コアの構築、2011年年次報告	村山繁雄
11:55-12:55	<p style="text-align: center;">昼食</p> <p style="text-align: center;">* プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班 研究者会議 * プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究班 研究者会議</p>			
III. プリオン病のサーベイランスと感染予防 Part 3 (12:55~13:45)				座長: 犬塚 貴
12:55	1-12	森若文雄	平成23年度北海道地区のCJDサーベイランス状況について	森若文雄
13:05	1-13	青木正志	東北地方におけるプリオン病のサーベイランス状況について	青木正志
13:15	1-14	武田雅俊	近畿ブロックのプリオン病疑い患者の疫学的実態	吉山顕次
13:25	1-15	阿部康二	中国四国地区におけるプリオン病サーベイランス	佐藤恒太
13:35	1-16	村井弘之	平成23年 九州・山口・沖縄地区のプリオン病サーベイランス解析結果	村井弘之
IV. プリオン病のサーベイランスと感染予防 Part 4 (13:45~14:35)				座長: 齊藤延人
13:45	1-17	犬塚 貴	画像所見、髄液所見から臨床的にCJDが疑われた一剖検例	林 祐一
13:55	1-18	太組一朗	非腫瘍性中枢性疾患バイオプシーに関する文献的考察	太組一朗
14:05	1-19	齊藤延人	プリオン病の二次感染リスク者のフォローアップに関する研究	齊藤延人
14:15	1-20	田村智英子	プリオン病患者・家族の心理教育用教材作成の試み	田村智英子
14:25	1-21	古賀雄一	耐熱性プロテアーゼによるPrP ^{Sc} の分解	古賀雄一
14:35-14:50	コーヒーブレイク			
V. ヒトプリオン病の病態 (14:50~15:35)				座長: 山田正仁
14:50	1-22	岩崎 靖	無動性無言状態におけるプリオン病患者の治療、経過と剖検について	岩崎 靖
15:05	1-23	高尾昌樹	神経病理組織学的検査ではじめて診断されたプリオン病の2症例	高尾昌樹
15:20	1-24	浜口 毅	わが国の硬膜移植後Creutzfeldt-Jakob病の特徴: 海外例との比較	浜口 毅
VI. プリオン病の診断法の開発 (15:35~16:50)				座長: 水澤英洋
15:35	1-25	坪井義夫	家族性プリオン病の発症前診断の是非	坪井義夫
15:50	1-26	佐々木真理	拡散強調画像のプリオン病早期病変診断能の向上—薄切スライス撮像と3 Tesla MRIの精度検証—	佐々木真理
16:05	1-27	山田正仁	孤発性クロイツフェルト・ヤコブ病の非侵襲的診断マーカーとしての血清総タウ蛋白	篠原もえ子
16:20	1-28	松田治男	H-FABPの髄液検査系—他のマーカーとの比較—	松田治男
16:35	1-29	西田教行	異常型プリオンタンパク試験管内増幅法(RT-QUIC法)とバイオマーカーを用いたヒトプリオン病の髄液診断法の確立	西田教行
VII. プリオン病の治療・予防法の開発 (16:50~17:35)				座長: 坪井義夫
16:50	1-30	毛利資郎	手術器具を模したワイヤーを用いたCJDプリオンの不活化法の評価	毛利資郎
17:05	1-31	竹内敦子	PMCA法を用いた医療器材消毒法の定量的評価	竹内敦子
17:20	1-32	堂浦克美	プリオン病の治療予防に関する基礎研究	堂浦克美
17:35終了	プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究班: 発表時間 10分 (発表7分、質疑応答3分) プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班: 発表時間 15分 (発表10分、質疑応答5分)			

(敬称略)

平成23年度 合同研究報告会 プログラム

2日目 1月17日(火) 9:00~17:00

開始時間	演題番号	研究者名	演題	演者
VIII. プリオン病の分子病態 Part 1 (9:00~10:00)				座長: 堂浦克美
9:00	2-1	桑田一夫	プリオンタンパク質のコンホメーション・スイッチと核依存性複製機構	桑田一夫
9:15	2-2	大橋祐美子	酵母プリオンSup35のアミロイド構造を決定する揺らぎ	大橋祐美子
9:30	2-3	金子清俊	異常型プリオン蛋白質(PrP ^{Sc})の分子内切断に関する分解酵素の同定	八谷如美
9:45	2-4	横山 隆	異常プリオン蛋白質の性状解析に関する研究	横山 隆
IX. プリオン病の分子病態 Part 2 (10:00~11:00)				座長: 毛利資郎
10:00	2-5	坂口末廣	プリオン感染によるオートファジー活性化のメカニズム	坂口末廣
10:15	2-6	桶本(中村)優子	非定型BSEに関する解析	桶本(中村)優子
10:30	2-7	長谷部理絵	マウス各種組織由来間葉系幹細胞の性状解析	長谷部理絵
10:45	2-8	作道章一	マウスへのプリオン感染時の酸化ストレス動態解析	作道章一
11:00-11:15	休憩			
X. 亜急性硬化性全脳炎(SSPE)のサーベイランスと病態 (11:15~12:15)				座長: 楠原浩一
11:15	2-9	岡 明	亜急性硬化性全脳炎サーベイランスの実施計画	岡 明
11:30	2-10	多田有希	亜急性硬化性全脳炎(SSPE)発生状況-特定疾患治療研究事業データの解析-	多田有希
11:45	2-11	市山高志	亜急性硬化性全脳炎患者における髄液中apolipoprotein E (ApoE) 濃度の検討	長谷川俊史
12:00	2-12	楠原浩一	SSPEにおける疾患感受性候補遺伝子の検討	楠原浩一
12:15-13:15	昼食 * プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班 研究者会議			
XI. 亜急性硬化性全脳炎(SSPE)の治療 (13:15~14:00)				座長: 細矢光亮
13:15	2-13	細矢光亮	皮下埋め込み型持続輸注ポンプを用いてリバリン脳室内持続投与療法を行った一例	阿部優作
13:30	2-14	愛波秀男	SSPEにおけるインターフェロンの治療期間と中止後の経過	愛波秀男
13:45	2-15	野村恵子	亜急性硬化性全脳炎に対するリバリン治療に関する全国調査	野村恵子
XII. 亜急性硬化性全脳炎(SSPE)の病態解明と治療法開発 (14:00~14:45)				座長: 堀田 博
14:00	2-16	細矢光亮	ヌードマウス脳内に持続感染した麻疹ウイルスの検討	阿部優作
14:15	2-17	柳 雄介	麻疹ウイルスの細胞融合能と神経病原性	柳 雄介
14:30	2-18	堀田 博	薬用植物等に含まれるSSPEウイルス増殖阻害物質の探索	堀田 博
14:45-15:00	コーヒーブレイク			
XIII. 進行性多巣性白質脳症(PML)のサーベイランスと臨床 (15:00~16:00)				座長: 岸田修二
15:00	2-19	西條政幸	脳脊髄液のJCウイルス検査を介した日本国内における進行性多巣性白質脳症のサーベイランスの現状および改善点	西條政幸
15:15	2-20	岸田修二	髄液JCV-PCR検査依頼時の調査用紙に基づいたPMLの症状、画像、検査、基礎疾患、薬剤誘発因子の検討	三浦義治
15:30	2-21	雪竹基弘	進行性多巣性白質脳症(PML)診療、1年間の進歩- Monoclonal antibody-associated PMLへの対応、メフロキンなど新規治療薬の話題 -	雪竹基弘
15:45	2-22	雪竹基弘	肝移植後に発症した進行性多巣性白質脳症の1例	本田省二
XIV. 進行性多巣性白質脳症(PML)の病態解明研究 (16:00~17:00)				座長: 長嶋和郎
16:00	2-23	穴戸-原 由紀子	進行性多巣性白質脳症の核内ウイルス封入体 ~電子顕微鏡と超高解像度顕微鏡による解析から~	穴戸-原 由紀子
16:15	2-24	澤 洋文	JCウイルスagnoproteinの粒子形態に関する影響	澤 洋文
16:30	2-25	長嶋和郎	メチル化遺伝子結合蛋白MeCP2のJCウイルス関連蛋白による転写制御の解析	高橋健太
16:45	2-26	奴久妻聡一	HIV-1 Tatタンパクによるヒト神経芽細胞腫でのJCV複製促進について	奴久妻聡一
17:00終了	プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班: 発表時間 15分 (発表10分、質疑応答5分)			

(敬称略)

[V] 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Fujita K, Harada M, Sasaki M, Yuasa T, Sakai K, Hamaguchi T, Sanjo N, Shiga Y, Satoh K, Atarashi R, Shirabe S, Nagata K, Maeda T, Murayama S, Izumi Y, Kaji R, Yamada M, Mizusawa H	Multicentre multiobserver study of diffusion-weighted and fluid-attenuated inversion recovery MRI for the diagnosis of sporadic Creutzfeldt-Jakob disease: a reliability and agreement study.	BMJ Open			In press
Nagoshi K, Sadakane Y, Nakamura Y, Yamada M, Mizusawa H	Duration of prion diseases in Japan is longer than that in other countries.	J Epidemiol	21	255-262	2011
Noguchi-Shinohara M, Hamaguchi T, Nozaki I, Sakai K, Yamada M	Serum tau protein as a marker for the diagnosis of Creutzfeldt-Jakob disease.	J Neurol	259	1464-1468	2011
Nozaki I, Sakai K, Kitamoto T, Yamada M	Prion protein gene M232R mutation as a cause of genetic prion disease (Reply to the Letter to the Editor: Beck <i>et al.</i> Prion protein gene M232R variation is probably uncommon polymorphism rather than a cause of inherited prion disease.)	Brain	135	e210	2011
Yoshikawa Y, Horiuchi M, Ishiguro N, Kadohira M, Kai S, Mizusawa H, Nagata C, Onodera T, Sata T, Tsutsui T, Yamada M, Yamamoto S	Alternative BSE risk assessment methodology of imported beef and beef offal to Japan.	J Vet Med Sci			In press
坂井健二, 山田正仁	プリオン病のサーベイランス	最新医学	66	1032-1038	2011
坂井健二, 山田正仁	プリオン病のサーベイランスと疫学	Neuroinfection	16	50-56	2011
野崎一朗, 山田正仁	認知症学 (下) : 致死性家族性不眠症	日本臨床	69	438-441	2011
山田正仁	ヒトのプリオン病の実態 : 獲得性プリオン病を中心に	医学のあゆみ	236	868-876	2011
Hachiya N, Komata Y, Harguem S, Nishijima K, Kaneko K	Possible involvement of calpain-like activity in normal processing of cellular prion protein.	Neurosci Lett	490	150-155	2011

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Shirakawa T, Nakano K, Hachiya N, Kato N, Kaneko K	The involvement of P2X ₁ receptor in pyramidal cell degeneration in the rat hippocampus after trimethyltin administration.	Neurosci Res	71	396-404	2011
八谷如美, 金子清俊	プリオン感染のリスクファクターとしての慢性炎症	実験医学	29	174-179	2011
八谷如美, 金子清俊	認知症学 (上) : プリオンタンパク質	日本臨床	69	119-123	2011
八谷如美, 金子清俊	認知症学 (下) : プリオン病の疫学と概論	日本臨床	69	405-410	2011
八谷如美, 金子清俊	認知症学 (下) : 変異型 Creutzfeldt-Jakob 病	日本臨床	69	419-422	2011
Sakudo A, Ano Y, Onodera T, Nitta K, Shintani H, Ikuta K, Tanaka Y	Fundamentals of prions and their inactivation.	Int J Mol Med	27	483-489	2011
Sakudo A, Onodera T	Tissue- and cell type-specific modification of prion protein (PrP)-like protein Doppel, which affects PrP endoproteolysis.	Biochem Biophys Res Commun	404	523-527	2011
作道章一, 田中康春	プリオン蛋白質(PrP)と PrP ファミリー蛋白質	防菌防黴	39	77-81	2011
Uraki R, Sakudo A, Michibata K, Ano Y, Kono J, Yukawa M, Onodera T	Blocking of FcR suppresses the intestinal invasion of scrapie agents.	PLos One	6	e17928	2011
Uraki R, Sakudo A, Ano Y, Kono J, Yukawa M, Zanusso G, Toniolo A, Onodera T	Penetration of infectious prion protein in the intestine during the lactation period.	Mini-Rev Org Chem	9	27-30	2012
Ishibashi D, Yamanaka H, Mori T, Yamaguchi N, Yamaguchi Y, Nishida N, Sakaguchi S	Antigenic mimicry-mediated anti-prion effects induced by bacterial enzyme succinylarginine dihydrolase in mice.	Vaccine	29	9321-9328	2011

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Fujita K, Yamaguchi Y, Mori T, Muramatsu N, Miyamoto T, Yano M, Miyata H, Ootsuyama A, Sawada M, Matsuda H, Kaji R, Sakaguchi S	Effects of a brain-engraftable microglial cell line expressing anti-prion scFv antibodies on survival times of mice infected with scrapie prions.	Cell Mol Neurobiol	31	999-1008	2011
Yokoyama T, Takeuchi A, Yamamoto M, Kitamoto T, Ironside JW, Morita M	Heparin enhances the cell-protein misfolding cyclic amplification efficiency of variant Creutzfeldt-Jakob disease.	Neurosci Lett	498	119-123	2011
Takeuchi A, Komiya M, Kitamoto T, Morita M	Deduction of the evaluation limit and termination timing of multi-round protein misfolding cyclic amplification from a titration curve.	Microbiol Immunol	7	502-509	2011
Shu Y, Masujin K, Okada H, Iwamaru Y, Imamura M, Matsuura Y, Mohri S, Yokoyama T	Characterization of Syrian hamster adapted prions derived from L-type and C-type bovine spongiform encephalopathies.	Prion	5	103-108	2011
Yamaguchi K, Matsumoto T, Kuwata K	Proper calibration of ultrasonic power enabled the quantitative analysis of the ultrasonication-induced amyloid formation process.	Protein Sci	21	38-49	2012
Hosokawa-Muto J, Kimura T, Kuwata K	Respiratory and cardiovascular toxicity studies of a novel anti-prion compound, GN8, in rats and dogs.	Drug Chem Toxicol			In press
Kimura T, Hosokawa-Muto J, Asami K, Murai T, Kuwata K	Synthesis of 9-substituted 2,3,4,9-tetrahydro-1H-carbazole derivatives and evaluation of their anti-prion activity in TSE-infected cells.	Eur J Med Chem	46	5675-5679	2011
Sanghera N, Correia BE, Correia JR, Ludwig C, Agarwal S, Nakamura HK, Kuwata K, Samain E, Gill AC, Bonev BB, Pinheiro TJ	Deciphering the molecular details for the binding of the prion protein to main ganglioside GM1 of neuronal membranes.	Chem Biol	18	1422-1431	2011
石川岳志, 石倉孝一, 桑田一夫	フラグメント分子軌道法プログラム「PAICS」と統合創薬プログラム「NAGARA」	Mol Sci	5	NP0015	2011

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
桑田一夫	量子ロボット	生物物理	51	205	2011
Atarashi R, Sano K, Satoh K, Nishida N	Real-time quaking-induced conversion: A highly sensitive assay for prion detection.	Prion	5	150-153	2011
Matsui Y, Satoh K, Miyazaki T, Shirabe S, Atarashi R, Mutsukura K, Sato A, Kataoka Y, Nishida N	High sensitivity of an ELISA kit for detection of the gamma-isoform of 14-3-3 proteins: usefulness in laboratory diagnosis of human prion disease.	BMC Neurol	11	120	2011
Takakura I, Miyazawa K, Kanaya T, Itani W, Watanabe K, Ohwada S, Watanabe H, Hondo T, Rose MT, Mori T, Sakaguchi S, Nishida N, Katamine S, Yamaguchi T, Aso H	Orally administered prion protein is incorporated by m cells and spreads into lymphoid tissues with macrophages in prion protein knockout mice.	Am J Pathol	179	1301-1309	2011
Hasebe R, Raymond GJ, Horiuchi M, Caughey B	Reaction of complement factors varies with prion strains in vitro and in vivo.	Virology	423	205-213	2012
Yamasaki T, Suzuki A, Shimizu T, Watarai M, Hasebe R, Horiuchi M	Characterization of intracellular localization of PrP ^{Sc} in prion-infected cells using monoclonal antibody that recognizes the region consisting of amino acids 119-127 of mouse PrP.	J Gen Virol			In press
Honda H, Sasaki K, Minaki H, Masui K, Suzuki SO, Doh-ura K, Iwaki T	Protease-resistant PrP and PrP oligomers in the brain in human prion diseases after intraventricular pentosan polysulfate infusion.	Neuropathology			In press
Unno M, Shinohara M, Takayama K, Tanaka H, Teruya K, Doh-ura K, Sakai R, Sasaki M, Ikeda-Saito M	Binding and selectivity of the marine toxin neodysiherbaine A and its synthetic analogues to GluK1 and GluK2 kainate receptors.	J Mol Biol	413	667-683	2011
Nguyen T, Sakasegawa Y, Doh-ura K, Go ML	Anti-prion activities and drug-like potential of functionalized quinacrine analogs with basic phenyl residues at the 9-amino position.	Eur J Med Chem	46	2917-2929	2011

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
岩崎 靖, 森 恵子, 伊藤益美	無動性無言状態に至ったプリオン病患者の臨床経過と治療に関する検討	臨床神経			In press
Iwasaki Y, Mimuro M, Yoshida M, Kitamoto T, Hashizume Y	Survival to akinetic mutism state in Japanese cases of MM1-type sporadic Creutzfeldt-Jakob disease is similar to Caucasians.	Eur J Neurol	18	999-1002	2011
Iwasaki Y, Mori K, Ito M, Nagaoka M, Ieda T, Kitamoto T, Yoshida M, Hashizume Y	An autopsied case of V180I Creutzfeldt-Jakob disease presenting with panencephalopathic-type pathology and a characteristic prion protein type.	Neuropathology	31	540-548	2011
Kobayashi A, Mizukoshi K, Iwasaki Y, Miyata H, Yoshida Y, Kitamoto T	Co-occurrence of types 1 and 2 PrP ^{res} in sCJD-MM1.	Am J Pathol	178	1309-1315	2011
Saito Y, Iwasaki Y, Aiba I, Kitamoto T, Yoshida M, Hashizume Y	An autopsy case of MM2-cortical + thalamic-type sporadic Creutzfeldt-Jakob disease.	Neuropathology	31	523-530	2011
岩崎 靖, 森 恵子, 伊藤益美, 吉田真理	無動性無言で長期間安定した状態を呈した孤発性 Creutzfeldt-Jakob 病の 1 剖検例	神経内科	74	410-415	2011
高尾昌樹	ラクナ梗塞の病理と発症機序	神経内科	74	217-226	2011
初田裕幸, 高尾昌樹	Amyloid β -protein 解説編	病理と臨床	29	81-83	2011
初田裕幸, 高尾昌樹	Amyloid β -protein 診断編	病理と臨床	29	84-91	2011
高尾昌樹	肝性脳症とアストロサイト	Clinical neuroscience	29	1298-1299	2011
高尾昌樹	クロイツフェルト・ヤコブ病. 精神科・わたしの診療手順	臨床精神医学			In press
坪井義夫	【中枢神経系感染症の Up-To-Date】 プリオン病に対する治療法の開発	最新医学	66	1025-1031	2011
Rosen RF, Fritz JJ, Dooyema J, Cintron AF, Hamaguchi T, Lah JJ, Levine, H 3 rd , Jucker M, Walker LC	Exogenous seeding of cerebral β -amyloid deposition in β APP-transgenic rats.	J Neurochem	120	660-666	2012

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Hamaguchi T, Eisele YS, Varvel NH, Lamb BT, Walker LC, Jucker M	The presence of A β seeds, and not age per se, is critical to the initiation of A β deposition in the brain.	Acta Neuropathol	123	31-37	2012
Abe Y, Hashimoto K, Inuma K, Ohtsuka Y, Ichiiyama T, Kusuhara K, Nomura K, Mizuguchi M, Ainami H, Suzuki Y, Mizusawa H, Hosoya M	Survey of subacute sclerosing panencephalitis in Japan.	J Child Neurol			In press
細矢光亮	亜急性硬化性全脳炎に対する治療の動向	最新医学	66	86-90	2011
細矢光亮	亜急性硬化性全脳炎 (SSPE) に対する新たな治療法の開発を目指して	Neuroinfection	16	1-8	2011
Hirano R, Hasegawa S, Hashimoto K, Haneda Y, Ohsaki A, Ichiyama T	Human thymic stromal lymphopoietin enhances expression of CD80 in human CD14+ monocytes/macrophages.	Inflamm Res	60	605-610	2011
Hasegawa S, Matsushige T, Inoue H, Shirabe K, Fukano R, Ichiyama T	Serum and cerebrospinal fluid cytokine profile of patients with 2009 pandemic H1N1 influenza virus-associated encephalopathy.	Cytokine	54	167-172	2011
Haneda Y, Hasegawa S, Hirano R, Hashimoto K, Ohsaki A, Ichiyama T	Leukotriene D ₄ enhances tumor necrosis factor- α -induced vascular endothelial growth factor production in human monocytes/macrophages.	Cytokine	55	24-28	2011
Hasegawa S, Ichiyama T, Sonaka I, Ohsaki A, Hirano R, Haneda Y, Fukano R, Hara M, Furukawa S	Amino acids exhibit anti-inflammatory effects in human monocytic leukemia cell line, THP-1 cells.	Inflamm Res	60	1013-1019	2011
Hasegawa S, Hirano R, Okamoto-Nakagawa R, Ichiyama T, Shirabe K	Enterovirus 68 infection in children with asthma attacks: virus-induced asthma in Japanese children.	Allergy	68	1618-1620	2011
Hasegawa S, Mori N, Satomi M, Jiang DP, Hotta H, Matsushige T, Ichiyama T	Interferon production by cells infected with subacute sclerosing panencephalitis (SSPE) virus or measles virus.	Cytokine	56	676-679	2011

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Hasegawa S, Ichiyama T, Sonaka I, Ohsaki A, Okada S, Wakiguchi H, Kudo K, Kittaka S, Hara M, Furukawa S	Cysteine, histidine and glycine exhibit anti-inflammatory effects in human coronary arterial endothelial cells.	Clin Exp Immunol	167	269-274	2012
Tanaka N, Emoto T, Suda H, Kunihiro Y, Matsunaga N, Hasegawa S, Ichiyama T	High-resolution computed tomography findings of influenza virus pneumonia: a comparative study between seasonal and novel (H1N1) influenza virus pneumonia.	Jpn J Radiol			In press
Arakawa M, Okamoto-Nakagawa R, Toda S, Tsukagoshi H, Kobayashi M, Ryo A, Mizuta K, Hasegawa S, Hirano R, Wakiguchi H, Kudo K, Tanaka R, Morita Y, Noda M, Kozawa K, Ichiyama T, Shirabe K, Kimura H	Molecular epidemiological study of human rhinovirus species ABCs from patients with acute respiratory illnesses in Japan.	J Med Microbiol			In press
Yüksel D, Ichiyama T, Yilmaz D, Anlar B	Cerebrospinal fluid apolipoprotein e levels in subacute sclerosing panencephalitis.	Brain Dev			In press
Inoue H, Orita T, Matsushige T, Hasegawa S, Ichiyama T	Klinefelter's syndrome complicated with West syndrome in a 4-month-old boy.	Brain Dev			In press
Seki F, Yamada K, Nakatsu Y, Okamura K, Yanagi Y, Nakayama T, Komase K, Takeda M	The SI strain of measles virus derived from an SSPE patient possesses typical genome alterations and unique amino acid changes that modulate receptor specificity and reduce membrane fusion activity.	J Virol	85	11871-11882	2011
Takahashi K, Oka A, Mizuguchi M, Saitoh M, Takita J, Sato A, Mimaki M, Kato M, Ogawa S, Igarashi T	Interstitial deletion of 13q14.13-q32.3 presenting with Arima syndrome and bilateral retinoblastoma.	Brain Dev	33	353-356	2011

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Koyano S, Inoue N, Oka A, Moriuchi H, Asano K, Ito Y, Yamada H, Yoshikawa T, Suzutani T, Japanese Congenital Cytomegalovirus Study Group	Screening for congenital cytomegalovirus infection using newborn urine samples collected on filter paper: feasibility and outcomes from a multicentre study.	BMJ Open	1	e00011	2011
水澤英洋, 岸田修二, 西條政幸, 雪竹基弘, 宍戸-原由紀子, 澤 洋文, 長嶋和郎, 奴久妻聡一, 山田正仁	<シンポジウム 20—4> 難治性神経感染症 update 進行性多巣性白質脳症	臨床神経学	51	1051-1057	2011
Nakamichi K, Kurane I, Saijo M	Evaluation of a quantitative real-time PCR assay for the detection of JC polyomavirus DNA in cerebrospinal fluid without nucleic acid extraction.	Jpn J Infect Dis	64	211-216	2011
岸田修二	進行性多巣性白質脳症	最新医学	66	1695-1703	2011
Shishido-Hara Y, Ichinose Y, Uchihara T	JC virus intranuclear inclusions associated with PML nuclear bodies: Analysis by electron microscopy and structured illumination microscopy.	Am J Pathol			In press
Nukuzuma S, Kameoka M, Sugiura S, Nakamichi K, Nukuzuma C, Miyoshi I, Takegami T	Exogenous human immunodeficiency virus-1 protein, Tat, enhances replication of JC virus efficiently in neuroblastoma cell lines.	J Med Virol	84	555-561	2012

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
濱口 毅, 山田正仁	プリオン病以外の アミロイドーシス は伝播するか？ (2) 脳アミロイド ーシス	山田正仁	アミロイドーシス ー診療のすべて： ガイドライン完全 解説	医歯薬出版	東京	2011	205-211
野崎一朗, 山田正仁	CASE 21. 書字障 害を初発として、 のちに記憶障害な どが出現した症例	小阪憲司	プライマリーケ ア医の認知症診 療入門セミナー	新興医学出 版社	東京	2011	196-206
山田正仁	プリオン病	日本感染症 学会	感染症専門医テ キスト。第I部解 説編	南江堂	東京	2011	1146- 1154
山田正仁	ヒトのプリオン病 の実態	佐藤真澄, 堤 寛	知っておきたい 動物の感染症 (別冊：医学のあ ゆみ)	医歯薬出版	東京	2011	147-155
八谷如美, 金子清俊	プリオン病	医学書院	今日の精神疾患 治療指針	医学書院	東京	2011	In press
高尾昌樹	脳血管性認知症	田中耕太郎, 高島修太郎	必携脳卒中ハン ドブック 改訂第 2版	診断と治療 社	東京	2011	357-361
細矢光亮	単純ヘルペス脳炎 診療ガイドライン	五十嵐隆, 塩見正司	小児科診療ピク シス 28巻「急性 脳炎・急性脳症」	中山書店	東京	2011	94-97
市山高志	免疫検査ーサイト カイン・代理マー カー	五十嵐隆, 塩見正司	小児科臨床ピク シス 28巻「急性 脳炎・急性脳症」	中山書店	東京	2011	30-33
堀田 博	遅発性ウイルス感 染症とプリオン病	東 匡伸, 小熊恵二, 堀田 博	シンプル微生物学 改訂第5版	南江堂	東京	2011	334-340

[VI] 研究班名簿

平成 23 年度プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班名簿

区 分	氏 名	所 属	役 職 名
研究代表者	山田 正仁	金沢大学医薬保健研究域医学系脳老化・神経病態学 (神経内科学)	教 授
研究分担者	水澤 英洋	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科脳神経病態学 (神経内科学)	教 授
	金子 清俊	東京医科大学神経生理学講座	主任教授
	作道 章一	琉球大学医学部保健学科生体代謝学	准 教 授
	坂口 末廣	徳島大学疾患酵素学研究センター神経変性疾患研究部門	教 授
	毛利 資郎	独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究所プリオン病研究センター	センター長
	竹内 敦子	東北大学大学院医学系研究科病態神経学講座	助 教
	横山 隆	独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究所プリオン病研究センター	上席研究員
	大橋祐美子	独立行政法人理化学研究所 脳科学総合研究センター	研 究 員
	桑田 一夫	岐阜大学大学院連合創薬医療情報研究科医療情報学専攻	教 授
	松田 治男	広島大学大学院生物圏科学研究科免疫生物学研究室	特任教授
	西田 教行	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科感染分子解析学分野	教 授
	長谷部理絵	北海道大学大学院獣医学研究科獣医衛生学教室	講 師
	堂浦 克美	東北大学大学院医学系研究科神経化学分野	教 授
	佐々木真理	岩手医科大学医歯薬総合研究所 超高磁場 MRI 診断・病態研究部門	教 授
	齊藤 延人	東京大学医学部附属病院脳神経外科	教 授
	岩崎 靖	愛知医科大学加齢医科学研究所	講 師
高尾 昌樹	東京都健康長寿医療センター研究所	専門研究部長	
坪井 義夫	福岡大学医学部神経内科学教室	教 授	

区 分	氏 名	所 属	役 職 名
研究分担者	桶本 優子	国立感染症研究所細胞化学部	主任研究官
	浜口 毅	金沢大学附属病院神経内科	助 教
	細矢 光亮	福島県立医科大学医学部小児科学講座	教 授
	市山 高志	山口大学大学院医学系研究科小児科学分野	教 授
	楠原 浩一	産業医科大学医学部小児科学講座	教 授
	堀田 博	神戸大学大学院医学研究科微生物学分野	教 授
	柳 雄介	九州大学大学院医学研究院ウイルス学	教 授
	野村 恵子	熊本大学医学部附属病院発達小児科	助 教
	岡 明	杏林大学医学部小児科	教 授
	大塚 頌子	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科発達神経病態学	教 授
	愛波 秀男	静岡県立こども病院地域医療連携室 兼 神経科	室長 兼 医長
	鈴木 保宏	大阪府立母子保健総合医療センター小児神経科	主任部長
	多田 有希	国立感染症研究所感染症情報センター	室 長
	澤 洋文	北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター 分子病態・診断部門	教 授
	西條 政幸	国立感染症研究所ウイルス第一部	部 長
	岸田 修二	東京都立駒込病院脳神経内科	部 長
	宍戸-原 由紀子	杏林大学医学部病理学教室	学内講師
	長嶋 和郎	北海道大学大学院医学研究科腫瘍病理学分野	名誉教授
	雪竹 基弘	佐賀大学医学部内科（神経内科）	講 師
	奴久妻聡一	神戸市環境保健研究所微生物部	副 部 長

